

第1、 近況、雑感

1. 4月、補正予算でも運営できるこの国は本当に平和なのか。かつては入学・卒業・就職など祝事に気配り、小遣銭配りで忙しかったが、90歳に近づく老人としては健康に感謝しての毎日、遣り残した計画表を見ながら今さらあわててもと半分あきらめに向う毎日ではと反省少々だが、世界はトランプの誤算で戦力も財力も消耗の日々。民主主義国家度は54位とか、ちなみに日本はまだ24位で、この国にも更なる支援要求が舞い込むだろう。オイルやライスだけで済めば良いのだが。
2. 今月27日には NPT(核拡散防止条約)の再検討会議が開幕となるが、米・露・英・仏・中の5カ国だけ核兵器保有と核軍縮交渉を義務づける条約にどれほどの現実的な効果があるのか、191カ国も参加している割には活動はにぶく核廃絶の方向に合意がなされてはいない。
3. 現在核弾頭は世界で 12,241 発あるとされ、米国・ロシアが各 5,000 発以上保有、中国・フランス・英国・インド・パキスタンが各 100 台発保有。各国がこれを増やそうとする中で、トランプはイランの現状を知りたくて、今回の攻撃を始めたことは明らかだが、「核なき世界」が一段と遠のくなかで唯一の被爆体験国日本は憲法改正を議論している時だろうか。
4. 40年前の4月26日は、旧ソ連時代のウクライナ チェルノブイリのあの原発事故の日であり、その25年後に福島事故が発生したが、福島第一原発の6倍、520 京の放射性物質で40万人が避難、31人死亡、6,000 人以上の子供の甲状腺異常が見つかったが、私個人としては遠い国の出来事に関係ないと考えていた。ところが結果的にこれらの子供の放射能被害回復を手伝うこととなり、今日の当社の目的の一部となった重大事であったのだが、長くなるので、＜サンケン通信＞として稿を起し近々皆様にお伝えすることでお許しを得たい。
5. 福島原発事故から15年、全くといいほど廃炉は進まず、汚染は続いている。事故炉の溶融核燃料(デブリ)の総量は880ト、これまでに取り出したのは耳かき一杯程度だそうで、25年後の2051年取り出し完了など全くの夢物語で未だ汚染は弱まらず、医療費獲得目的の追跡診断トラブルも、チェルノブイリ同様にまだ住民を苦しめているようだ。
6. さきの大東亜戦争を少し知っている日本人として、ひたすら「こんなダメな国

ではない」、もっと希望をもって孫子に誇れるすごい国なのだと信じてきたのだが、これ以上日本にも人類全体についても、あきらめ続けるしかないのかと思いながら、もうすぐ90歳、卒寿(歳にこだわるのを卒業する日)が近づいてきました。

第2、 今月の報告文

- ・「争いの絶えない地球」 河谷史夫 (2026.5 本に会う 選択)

第3、 今月の再読本

- ・「チェルノブイリ」 最後の警告
(高木仁三郎、1986.12.25、七つ森書館 1,400 円)
- ・「チェルノブイリ診療記」 この子たちを救いたい！
(菅谷昭、1998.8.30、晶文社 1,900 円税別)
- ・「こうして原発被害は広がった」 先行のチェルノブイリ
(ピアズ・ポール・リード、2011.6.30、文藝春秋 1,524 円税別)
- ・「低線量放射線被爆」 チェルノブイリから福島へ
(今中哲二、2012.10.25、岩波書店 1,800 円税別)
- ・「医師が診た核の傷」 現場から告発する原爆と原発
(広岩近広、2018.9.10、藤原書店 2,200 円税別)

第4、 今月のことば

- 金ではなく、自分の目や舌で良いものを見つける快樂こそ、老後の特権です。(種村季弘)
- 人間、なんか悪いことをやってないと、精神のバランスが崩れてきちゃうんだ。(小沢昭一)
- 夜明けの山は、死からの甦りですよ。大音響とともに立ち上がってくる。(白川義員)

2026 年 4 月 30 日

サンケン環境株式会社
代表 山形 健次郎
(携帯:080-5538-2918)